



曆を如何するつもりか？

我が國內の誰れかれなどといふ小さい問題では無い。全世界のうち、たれ一人、曆無しに毎日の生活が出来るものでない!! この大切な曆の、根本原則に、開闢以來の大改革が行はれようとしてゐるのだ!! 何所の國の誰でもが、何とか一言無かるべからざる時だ!! 學者だからとか、政治家だからとか、實務家だからとか、老人だから、青年だからとか、男だからとか、女だからとか、——そんなことで遠慮や、我慢や、引き込み思案などしてゐる時では無いのだ。

ジュネーヴの會議の結果、曆は必ず改められるのである。どの道、今の曆が無茶苦茶な、デタラメな曆であるのは、改めて言ふまでも無い。之れを皆が黙つて使つてゐただけでも現代人の面汚しなのだ。是非にも何等かモダンな曆に改めなければならない。國際聯盟が百有餘の改曆案の中から選び抜いた最後の三案、それは要するに

- A 案. できるだけ現状維持、なるべく保守的に現行曆を守るか。
- B 案. 一年12ヶ月を保存し、其の代り七曜週を整理し、無週日を設けるか。
- C 案. 一年を斷然13ヶ月といふ眼の醒めるやうな大改革を敢行するか。

の三つの何れかである。之れに就ては總ての國、總ての團體、總ての個人が、必ず何等かの言ひ分^{ぶん}を持つて居るべき筈である。

ジュネーヴへ、我が日本からは、何一つ意見を送つて居ない! 其れで國民は満足なのか? 諸外國の意のまゝに引きずられることに些の不滿を感じないのか? Yes なら Yes, No なら No, と明瞭に國民の總意を男らしく表はすべきでは無いか?